

# 冠詞 — 意味によって可算か不可算が変わる名詞の場合

このスライドでは、  
意味によって可算か不可算が変わる名詞（英語名：two-way noun, double noun）  
を扱います。

（※このスライドは、冠詞の使い分けの考え方を、可算名詞と不可算名詞それぞれの場合において理解していることを前提としています。考え方がよく分からない方は、まずは、[冠詞 — 可算名詞の場合](#)と[冠詞 — 不可算名詞の場合](#)をご覧ください。）

意味によって可算か不可算が変わる名詞を使用するときには、  
まず、可算扱いと不可算扱いのどちらが適切かを判断します。

可算扱いと不可算扱いのどちらが適切か分からないときは、必ず辞書を引いて調べましょう。

(例文や説明などが多く掲載されているので、learner's dictionary を使用することがおすすめです。)

# 意味によって可算か不可算が変わる名詞の例

意味によって可算か不可算が変わる名詞には、

(i) 可算扱いと不可算扱いとで意味が異なる名詞と

(ii) 可算扱いと不可算扱いとで意味が似ているがニュアンスが異なる名詞  
があります。

(i) 可算扱いと不可算扱いとで意味が異なる名詞の例

- work
  - 可算扱い:「作品」
  - 不可算扱い:「仕事」「課題」「作業」
- paper
  - 可算扱い:「新聞」
  - 不可算扱い:「紙」

(ii) 可算扱いと不可算扱いとで意味が似ているがニュアンスが異なる名詞の例

- religion
  - 可算扱い:「(具体的な個々の)宗教」
  - 不可算扱い:「宗教(という概念)」「信仰」

それでは、冠詞の使い分け(a/an, the, それとも無冠詞か)を

(i) 可算扱いと不可算扱いとで意味が異なる名詞と

(ii) 可算扱いと不可算扱いとで意味が似ているがニュアンスが異なる名詞  
の場合に分けてみていきましょう。

基本的には、

冠詞の使い分けは、(i) の場合も (ii) の場合も

- 名詞が可算扱いの場合は通常の名詞と同様
  - 名詞が不可算扱いの場合は通常の名詞と同様
- です。

## 可算扱いと不可算扱いとで意味が異なる名詞

work を例にみてみましょう。

◇ work を「作品」という意味で使用する時、可算扱いとなり、冠詞の使い分けも可算名詞の場合のルールに従います。

Figure 3 shows a work of art.

- 「芸術の作品」という種類のものに言及していることは分かるが、どの「芸術の作品」を指しているか分からないので、冠詞は a を使用

The work of art on that table is very sophisticated.

- 「芸術の作品」という種類のものに言及していることが分かり、具体的にどの「芸術の作品」を指しているかも分かるので、冠詞は the を使用

Works of art enrich people's lives.

- 「芸術の作品」全てに言及しているので、冠詞は the を使用

◇ work を「仕事」「課題」という意味で使用するとき、不可算扱いとなり、冠詞の使い分けも不可算名詞の場合のルールに従います。

This is work that can be completed online.

- 「オンラインでできる作業」の範囲は限定されていないので、無冠詞

She did the work that her boss had assigned to her.

- 「彼女の上司が彼女に割り当てた仕事」の範囲は特定されているので、冠詞は the を使用

## 可算扱いと不可算扱いとで意味が似ているがニュアンスが異なる名詞

religion を例にみてみましょう。

◇ religion という単語は、「キリスト教」「イスラム教」「仏教」など、個々の具体的な「宗教」という意味で使用するときには可算扱いとなり、冠詞の使い分けも可算名詞の場合のルールに従います。以下の3つのセンテンスでは religion が可算扱いされているので、読み手は「宗教」を一つの概念として捉えるのではなく、個々の具体的な「宗教」を想像します。

Christianity is a religion that is monotheistic.

- 「一神教の宗教」という種類のものに言及していることは分かるが、名詞句 a religion that is monotheistic の部分のみからは、どの「一神教の宗教」を指しているか分からないので、冠詞は a を使用

The religion with the highest number of followers is Christianity.

- 「最も信者数の多い宗教」は一つしか存在しないので、冠詞は the を使用

Religions are complex.

- 「宗教」全てに言及しているので、無冠詞+ 複数形 の形を使用

◇ religion という単語は、「宗教という概念」「宗教というもの」や「宗教全体」、また「信仰」という意味で使用するときは不可算扱いとなり、冠詞の使い分けも不可算名詞の場合のルールに従います。以下の2つのセンテンスでは religion が不可算扱いされているので、読み手は個々の宗教を想像するのではなく、宗教を一つの概念として捉えます。

Some people claim that science and religion are incompatible.

- religion が指しているものの範囲は限定されていないので、無冠詞

Religion is complex.

- religion が指しているものの範囲は限定されていないので、無冠詞

◇ 不可算名詞が指しているものの範囲が限定又は特定されている場合は、the + 不可算名詞の形を使用しますが、the religion とした場合、the + 可算名詞の形と区別がつかず、the + 可算名詞の意味(具体的な特定の宗教を指している)として解釈されます。



# 比べてみよう

- (1) Religions are complex.
- (2) Religion is complex.

(1) と (2) にはどのようなニュアンスの違いがあるでしょうか？

(1) **Religions are complex.** のニュアンス:

**「(個々の)宗教(全て)は複雑だ」**

religion が可算扱いされているので、「キリスト教」「イスラム教」「仏教」など、個々の宗教それぞれが複雑だ、という意味になります。(キリスト教は複雑で、イスラム教は複雑で、仏教は複雑で、それ以外の宗教も複雑、という意味)

(2) **Religion is complex.** のニュアンス:

**「宗教(というものは)複雑だ」**

religion が不可算扱いされているので、「宗教というもの」全体で見ると、宗教は複雑だ、という意味になります。(個々の宗教については触れておらず、個々の宗教がそれぞれ複雑かどうかは不明)